

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
ホンダ テクニカル カレッジ 関東		昭和51年2月21日		勝田 啓輔		〒 356-8567 (住所) 埼玉県ふじみ野市鶴ヶ岡5丁目2番2号 (電話) 049-264-0121		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人ホンダ学園		昭和51年2月21日		清水 光太郎		〒 356-8567 (住所) 埼玉県ふじみ野市鶴ヶ岡5丁目2番2号 (電話) 049-264-0121		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
工業	工業専門課程		一級自動車整備学科		-		平成18(2006)年度	平成29(2017)年度
学科の目的		学校教育法及び私立学校法の規定に基づき、高度の一般教育と実践的専門的な技術及び理論を習得させ、自動車の未来を担う自動車知識と技術力と行動力をもった国家一級自動車整備士を育成する事を目的とする。						
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)		国家1級自動車整備士、国家2級自動車整備士、ホンダ四輪サービスエンジニア2級、損害保険募集人(自動車単位)						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		4,033 単位時間	1,522 単位時間	61 単位時間	2,450 単位時間	- 単位時間
		- 単位		- 単位	- 単位	- 単位	- 単位	- 単位
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率
310 人		184 人		2 人		0 %		3 %
就職等の状況		■卒業者数(C) : 61 人						
		■就職希望者数(D) : 56 人						
		■就職者数(E) : 56 人						
		■地元就職者数(F) : 27 人						
		■就職率(E/D) : 100 %						
		■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 48 %						
		■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 92 %						
		■進学者数 : 1 人						
		■その他						
		4名						
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載						
		無						
		評価団体: ○○○○ 受審年月: ○年○月 評価結果を掲載したホームページURL ○○○○						
当該学科のホームページURL		https://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		(A: 単位時間による算定)						
		総授業時数		4,033 単位時間				
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		151 単位時間				
		うち企業等と連携した演習の授業時数		11 単位時間				
		うち必修授業時数		162 単位時間				
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		151 単位時間				
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		11 単位時間				
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		151 単位時間				
		(B: 単位数による算定)						
		教員の属性(専任教員について記入)		① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					1 人			
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人			
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0 人			
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					3 人			
計					8 人			
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					7 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界団体等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能を反映するため、企業・業界団体等からの意見を十分にいかし、カリキュラムの改善等の教育課程編成を定期的に行うことを基本に展開を図る。また、企業実習などを通じ、学校では学びきれない実践力を養うと共に、卒業生満足度調査を実施し、企業が求める人材要素や教育弱点領域の把握を

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

校長は当年度の教育課程編成を本校関係者により組織した教育課程編成委員会(以下「編成委員会」という。)に報告し、意見を聴取し、その意見を尊重し、教育活動に活用する。

① カリキュラムの改善のため委員会を設置

② カリキュラムの改善への意見を提案

③ 組織としてカリキュラムの改善を検討・決定

④ 決定内容に応じてカリキュラムを改善

⑤ 実施結果を検証

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
岩間 一浩	一般社団法人 埼玉県自動車整備振興会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
富田 英則	株式会社 ホンダカーズ久喜	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
中村 純一	株式会社 ホンダプロモーション	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
小松 由佳	Astemo 株式会社	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
勝田 啓輔	ホンダテクニカルカレッジ関東	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
横田 俊幸	ホンダテクニカルカレッジ関東	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
池本 裕樹	ホンダテクニカルカレッジ関東	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
茂野 泰士	ホンダテクニカルカレッジ関東	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年6月17日 14:00～16:20

第2回 令和6年12月4日 14:00～16:20

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ・今後の電気自動車等の普及を踏まえ、エネルギーマネジメントサービスの教育を検討する
- ・レストア作業のような達成感を感じることができるカリキュラムの拡大展開を検討する
- ・HondaCarsにおけるサービスICTツールの実践力強化カリキュラムの充実を図る
- ・CS調査結果による課題の改善策を検討実施する

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

内定している就職先に派遣するインターンシップ研修を中心に実施。現場を通じ学生個々が自分の不足部分を具体的に把握することが出来る。研修後に、不足している課題を残りの在学中に解決に取り組み、実践力向上につなげる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

就職内定先企業、または提携企業にて現場実習を行う。合わせて研修学生は実習先へ研修レポートを提出し、企業から考課表にて評価を頂くと共に科目評価とする。(対象科目:実践自動車整備 体験実習)

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
営業実務	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	自動車整備業界における接客マナーを	株式会社ホンダモビリティ南関東
営業実務	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	損害保険会社のアジャスター業務内容	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
営業実務	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	エンジンオイルの役割、組成、規格 M	エクソンモービル・ジャパン合同会社
営業実務	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	業界動向とホンダ純正ケミカルについて	株式会社ホンダアクセス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 学則細則(教職員の研修) 第5条 教員は、校長の指示により、その専門分野における実務能力の向上及び指導力の修得・向上のために必要な研修を定期的に受けるものとする。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 整備主任者講習	連携企業等: 埼玉県自動車整備振興会	
期間: 令和6年10月	対象: 整備主任者	
内容: 自動車関連法令講習		
研修名: 一級自動車整備士養成講習	連携企業等: 神奈川県自動車整備振興会	
期間: 令和6年6月～令和7年3月	対象: 二級自動車整備士教員	
内容: 一級自動車整備士技術講習		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 専修学校教員研修会	連携企業等: 埼専各	
期間: 令和6年6月29日、7月13日、27日	対象: 赴任～5年目教員	
内容: 教育原理・教育知識、学生コミュニケーション技法		
研修名: 教職員研修会	連携企業等: JAMCA	
期間: 令和6年7月30日～8月2日	対象: 赴任～5年目教員	
内容: チームビルディング、授業運営技法、学生指導法		
研修名: かたちえ研修	連携企業等: 株式会社かたちえ	
期間: 通年	対象: 教職員全般	
内容: 思考法		

(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	TSS研修	連携企業等: 本田技研工業株式会社
期間:	令和7年6月28日、7月12日、26日	対象: 整備系学科教員
内容	ホンダ販売店 問診ツール研修	
研修名:	整備主任者講習	連携企業等: 埼玉県自動車整備振興会
期間:	令和7年10月	対象: 0
内容	自動車関連法令講習	
研修名:	一級自動車整備士養成講習	連携企業等: 神奈川県自動車整備振興会
期間:	令和7年6月～令和8年3月	対象: 二級自動車整備士教員
内容	一級自動車整備士養成講習	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	専修学校教員研修会	連携企業等: 埼専各
期間:	令和7年6月28日、7月12日、26日	対象: 赴任～5年目教員
内容	教育原理・教育知識、学生コミュニケーション技法	
研修名:	教職員研修会	連携企業等: JAMCA
期間:	令和7年7月29日～8月1日	対象: 赴任～5年目教員
内容	チームビルディング、授業運営技法、学生指導法、コンプライアンス・ハラスメント研修	
研修名:	かたちえ研修	連携企業等: 株式会社かたちえ
期間:	通年	対象: 教職員全般
内容	思考法	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学則に照らし建学の精神・育成方針に沿った年度毎の重点施策、学生生徒の状況、教育課程・学習指導、教員の状況について自己評価表を用い、自己評価を実施し、学外からの適正な評価を受けるため、学外者を含んだ学校関係者評価委員会を組織し、実施した自己評価を検証する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	建学の志・学園の目的・育成方針・令和7年度方針
(2)学校運営	中期計画の方針(運営方針・授業計画・運営組織・人事賃金での処遇
(3)教育活動	各学科の教育目標・育成人材像・教育到達レベル・カリキュラム編成・
(4)学修成果	就職内定率・各種試験合格率・退学率・卒業生評価・在校生評価等
(5)学生支援	就職に関する体制・学生相談に対する体制・経済支援体制・健康管理
(6)教育環境	施設設備の整備・インターンシップ体制・海外研修体制・防災体制
(7)学生の受入れ募集	学生募集・教育成果・入学選考・学納金
(8)財務	主要財務数値・予算書・監査計画書
(9)法令等の遵守	専修学校設置基準・第一種養成施設指定基準・個人情報保護・自己点
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献活動・学生ボランティア・SJAH学生研修/インストラクター研
(11)国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

第1回評価委員会において、最初に校内視察を行い、学科授業と実習授業の状況を確認しました。その後学校側より、学園概況、教育内容、令和5年度の重点課題、重点目標の説明があり、本委員会における課題共有を図りました。同時に令和5年度の自己点検・自己評価報告書による評価結果の説明があり、質疑応答を通して意見交換を行いながら詳細に課題認識を深めました。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
眞鍋 光毅	株式会社 ホンダモビリティ南関東	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
佐藤 雅則	株式会社 オートテックジャパン	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
木村 一年	本田技研工業株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
金子 明	ふじみ野市役所	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	自治体代表
関根 徹	ホンダ テクニカル カレッジ 関東 後援会	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	保護者代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL: https://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/

公表時期: 45839

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校教育法に基づき、学生・保護者・自動車業界関係者など当該専門学校に関する関係者理解を深め、これらの者と連携協力すると同時に、学校教育法をはじめ、関係法令で定められた目的を実現するための公的な教育機関として、教育活動・自動車に関する情報、その他の学校運営に関する情報を積極的に提供していく。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	建学の志・学園の目的・育成方針・令和7年度方針
(2)各学科等の教育	中期計画の方針(運営方針・授業計画・運営組織・人事賃金での処遇制
(3)教職員	各学科の教育目標・育人人材像・教育到達レベル・カリキュラム編成・教
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職内定率・各種試験合格率・退学率・卒業生評価・在校生評価等
(5)様々な教育活動・教育環境	就職に関する体制・学生相談に対する体制・経済支援体制・健康管理体
(6)学生の生活支援	施設設備の整備・インターンシップ体制・海外研修体制・防災体制
(7)学生納付金・修学支援	学生募集・教育成果・入学選考・学納金
(8)学校の財務	主要財務数値・予算書・監査計画書
(9)学校評価	専修学校設置基準・第一種養成施設指定基準・個人情報保護・自己点
(10)国際連携の状況	社会貢献活動・学生ボランティア・SJAH学生研修/インストラクター研修
(11)その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ

URL: https://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/

公表時期: 45839

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級自動車整備学科)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			材料	自動車整備作業に関係する自動車のリサイクル対応の予備知識の習得。	1前	10.8	○			○		○		
2	○			図面	整備士として業務で用いるマニュアル等の図が理解でき、簡単な図が描ける知識を習得する。	1前	7.2	○			○		○		
3	○			基礎自動車工学	自動車の全体像を理解させ、その後の本格授業への意識付けを行う。自動車の専門用語、専門単位に触れ、技術者の卵としての意識付けを行う。	1前	14.4	○			○		○		
4	○			基礎整備作業	整備の基礎知識を理解し、身に付ける。基礎整備作業を理解し、身に付ける。電流・電圧・抵抗・回路等、義務教育で学んだ内容の復習。サーキットテストの使用方法を覚える。	1前	14.4	○			○		○		
5	○			自動車総論Ⅰ	整備士として業務で用いる計算式が理解でき、計算方法を習得する。	1後	18.0	○			○		○		
6	○			パワーユニット構造	ホンダ二輪サービスエンジニアHMSE3級習得に向けての基礎習得 ホンダ四輪サービスエンジニア3級に向けての基礎習得及び国家資格3級レベルの習得	1前	64.8	○			○		○		
7	○			シャシ構造	二輪及び四輪自動車のシャシ系装置について、基本構造と名称及び作動の理解を目的とする。	1前	64.8	○			○		○		
8	○			パワーユニット整備	二輪・四輪の各装置の概要・構造・機能・整備を理解する。燃料の精製・性状・添加剤・取り扱い上の注意を理解する。潤滑剤の目的・種類を理解する。	1後	57.6	○			○		○		
9	○			シャシ整備	二輪及び四輪自動車のシャシ系各装置について、基本構造の復習と更なる理解度の向上を目的とする	1後	57.6	○			○		○		
10	○			二輪車整備	二輪車エンジン、フレーム、電装の各装置について、基本構造と整備の理解	1後	19.8	○			○		○		
11	○			自動車法規	自動車整備士として必要な「道路運送車両法」の基本的な法令知識を身につけ、法令に則った適正な整備・点検業務を行える基礎を養う。	1後	7.2	○			○		○		
12	○			基礎整備作業実習	工具の名前を覚えて使い方を理解 お客様の財産を扱うという意識を持たせる 整備作業を安全にのルールを理解	1前	18.0			○	○		○		
13	○			パワーユニット構造	ホンダ2輪サービスエンジニアHMSE3級習得に向けての基礎習得 ホンダ四輪サービスエンジニア3級に向けての基礎習得及び国家資格3級レベルの習得	1前	158.4			○	○		○		
14	○			シャシ構造	二輪及び四輪自動車シャシの各装置について、基本構造、作動、機能、名称の習得を目的とする。	1前	158.4			○	○		○		

15	○		パワーユニット整備	二級整備士試験合格レベルに到達する上で、必要となる三級自動車整備士レベルの二輪及び4輪自動車エンジンの基礎知識・技術を習得する。	1後	162.0			○	○	○			
16	○		シャシ整備	各装置の点検、調整、測定の手順を習得、定期点検（12カ月点検）導入、及び記録簿の記入手順の習得	1後	162.0			○	○	○			
17	○		二輪車整備	二輪車エンジン、フレーム、電装の各装置について、基本構造と整備の理解	1後	16.2			○	○	○			
18	○		安全運転学	自動車業界の一員であることを自覚し、規律の大切さと他人との協調を養う。安全運転の思想『人間尊重』を学ぶ。	1通	25.2	○		△	○	○	○		
19	○		接客実務	就職活動時に必要となるスキル、広く接遇の基本マナーを身に付け、最小限のマナーを身につける。	1通	18.0			○	○	○			
20	○		実践自動車整備	自動車整備士の役割、社会的使命とコンプライアンスを理解する タイヤ空気充填作業特別教育	1通	21.6			○	○	○			
21	○		自動車総論Ⅱ	二級自動車整備士（総合）試験の2級、3級に出題される総論・工学の計算問題を解けるようになる。	2前	30.6	○			○	○			
22	○		応用パワーユニット1	ガソリン・エンジンの各装置（二級自動車整備士（総合）のエンジン領域）の構造・機能及び電気装置の仕組みを理解する。	2前	46.8	○			○	○			
23	○		応用パワーユニット2	ガソリン、ディーゼル・エンジン及びハイブリッド自動車の各装置（二級自動車整備士（総合））の機能・構造及び仕組みを理解する。	2前	36.0	○			○	○			
24	○		応用シャシ	車両の保安基準適合性及び車両の動力伝達等（二級自動車整備士（総合）のシャシ領域）の構造、機能、作動を理解する。	2前	46.8	○			○	○			
25	○		総合パワーユニット	電気自動車の整備業務及びHonda車の電子制御装置、HYBRIDシステムの機能、構造、役割を理解する。	2後	32.4	○			○	○			
26	○		総合シャシ	Honda車のミッション、シャシ装置、補器類の機能、構造、作動を理解する。	2後	32.4	○			○	○			
27	○		モビリティ技術	Hondaの取り組んでいる活動、最新技術、運転支援システムなどを理解する。	2前	10.8	○			○	○			
28	○		自動車検査	車両の保安基準適合性、ブレーキ装置、電気装置等（二級自動車整備士（総合）のシャシ領域）の構造、機能、作動を理解する。	2前	23.4	○			○	○			
29	○		自動車法規	自動車整備士に必要な法規（道路運送車両法、道路運送車両法の保安基準）を理解し、実践できるようになる。	2前	19.8	○			○	○			
30	○		応用パワーユニットⅠ	エンジン領域の各装置について、構造、機能、整備作業について実習を通じて理解度を高める。	2前	46.8			○	○	○			
31	○		応用パワーユニットⅡ	ガソリン、ディーゼル・エンジン及びハイブリッド自動車の各装置（二級自動車整備士（総合））の機能・構造及び仕組みを理解する。	2前	54.0			○	○	○			

32	○		応用シャシ	シャシ領域の各装置について、構造、機能、整備作業について実習を通じて理解度を高める。	2 前	46.8			○	○	○		
33	○		総合パワーユニット	エンジン領域の各装置について、構造、機能、整備作業について実習を通じて理解度を高める。	2 後	46.8			○	○	○		
34	○		総合シャシ	シャシ領域の各装置について、構造、機能、整備作業について実習を通じて理解度を高める。	2 後	46.8			○	○	○		
35	○		整備作業シャシ	シャシ領域の各装置について、構造、機能、整備作業について実習を通じて理解度を高める。	2 後	46.8			○	○	○		
36	○		実践力養成	必要な知識や技術を実践的な授業を通して、知識や技術を習得しや自分の考えをまとめ発表できるようになる。	2 通	79.2			○	○	○	○	
37	○		整備作業パワーユニット	エンジン領域の各装置について、構造、機能、整備作業について実習を通じて理解度を高める。	2 後	46.8			○	○	○		
38	○		モビリティ技術	Hondaの最新技術、運転支援システムなどを点検整備、作動確認などを実施することで理解度を深める	2 前	28.8			○	○	○		
39	○		自動車検査	シャシ領域の各装置について、構造、機能、整備作業について実習を通じて理解度を高める。各作業における中間検査、完成検査の手順を理解する。	2 前	54.0			○	○	○		
40	○		安全運転学	自動車業界の一員であることを自覚し、交通社会において安全運転の実践と普及（アドバイス）することが出来るようになる。	2 通	18.0	○		△	○	○	○	○
41	○		接客実務	Honda Carsのサービス部門の仕事を理解し、サービス活動とフロント業務の知識を習得する。	2 通	18.0	○		△	○	○	○	○
42	○		実践自動車整備	授業及び教科書内容の理解を深めることで、国家二級自動車整備士（総合）資格に合格するための基礎知識を身につける。	2 通	90.0	○		△	○	○		
43	○		自動車構造・力学	1級整備士におけるの自動車構造及び自動車の性能等における力学的要素について知識を習得する。	3 前	18.0	○			○	○		
44	○		自動車電気・電子	1級整備士レベルでの自動車電気装置（電子制御回路の基本と応用及び点検診断等）における知識を習得する。	3 前	32.4	○			○	○		
45	○		新材料・新技術	自動車の新機構・新材料及びHonda技術等について理解習得する	3 後	43.2	○			○	○		
46	○		総合診断技術	1級整備士レベルでの各センサーやアクチュエーターの回路を理解する。信号波形を理解し、適した測定方法を理解する	3 通	64.0	○			○	○		
47	○		応用整備技術	（前期）電子ハーツ、半導体の構造・機能、特徴を理解する。オペアンプの使い方の理解。簡単な回路設計（後期）1級シャシ・エンジンの理論的な診断（CAN通信含む）	3 通	99.0	○			○	○		
48	○		環境安全論	「環境保全」の必要性和意義、資源の有効利用、産業廃棄物の影響と対応、整備工場における適正処理等の知識を理解する。安全管理・防火防災・応急処置・安全管理等	3 前	28.8	○			○	○		

49	○		自動車検査 (一級)	道路運送車両法に基づき検査業務を学ぶ。 検査機器の使い方、指定整備記録簿の適切な理解運用	3 前	7.2	○			○		○			
50	○		自動車法規 (一級)	1級整備士として道路運送車両法や保安基準、合わせて関係諸法令等を理解し、正しい運用能力を身につける。	3 前	10.8	○			○		○			
51	○		自動車概論Ⅰ	1級教科書（エンジン・シャシ・環境・法令・新技術）の教科書理解	3 通	23.4	○			○		○			
52	○		自動車概論Ⅱ	電子制御装置のセンサー技術・アクチュエータ技術・制御技術を学ぶ	4 前	99.0	○			○		○			
53	○		整備技術	エンジン電子制御装置の知識を学び、応用技術を理解する。電源・センサ・アクチュエータ・信号電圧・異常検知・故障診断の理解。オシロスコープ外部診断機の活用。	3 前	126.0			○	○		○			
54	○		故障診断	シヤン電子AT/EPS/ABS/ACの知識を学び、応用技術を理解する。電源・センサ・アクチュエータ・信号電圧・異常検知・故障診断の理解。オシロスコープ外部診断機の活用。	3 後	72.0			○	○		○			
55	○		応用整備実務	車検・点検・一般整備作業、およびHondaサービスエンジニアに必要な知識技術の習得。E-DEALERの習得。アライメントテスターによるアライメント調整	3 通	144.0			○	○		○			
56	○		整備作業課題研究	テーマ研究を推進することでテーマ推進のプロセスを理解すると共に、各自の整備技術・知識の向上を目指す	3 後	140.4			○	○	○	○			
57	○		自動車検査 (実習) 一級	検査業務の流れ、機器の取り扱いの習得。自動車に関する法令を把握し、それらに対応した検査・点検・一般作業を習得。	3 後	21.6			○	○		○			
58	○		専門実習	一級整備士としての実践的な整備技術の向上を図ると共に高度な診断スキルを習得する。問診手法を通じて	4 後	226.8			○	○		○			
59	○		応用実習	実践的作業実習（車検点検・一般整備）	4 前	64.8			○	○		○			
60	○		総合実習	軽作業～重作業迄の実際の現場で想定される整備技術の習得。オシロスコープやサーキットテスタを活用した診断手法習得。実習によるHDSの習得	4 通	291.6			○	○		○			
61	○		体験実習（企業実習）	授業で学んだ理論と技術を実際の職場で実践、確認することで、自己の弱点を把握し、卒業までの具体的な課題と目標を明確にする。	4 前	151.2			○		○	○		○	
62	○		サービスマネジメント	Hondaのサービスエンジニアに必要な幅広い知識を習得する。	3 4 通	14.4	○			○		○			
63	○		サービスマネジメントⅠ	サービスフロントとしての技術、知識を身に着ける。実践の点検しながら、Hondaの顧客管理システムE-DEALERによる顧客管理/騒音診断・問診・お客様対応を学ぶ。	3 通	100.8	○		△	○		○			
64	○		サービスマネジメントⅡ	Hondaのサービスエンジニアに必要な技術を習得し、実技試験合格を目指す。	4 通	30.6	○		△	○		○			
65	○		経営概論	1級整備士としての対人関係能力向上を図る。仕事の進め方の理解、特にQCの理解、実践により問題解決手法の理解	3 前 4 通	61.2	○			○		○			

66	○		営業実務	顧客対応能力、用品知識などの応用スキルや販売会社における実務としての知識を身に付けると共に、接客実務の能力向上を図り実践する。	3 4 通	122.4	○	△		○		○		○
67	○		情報処理実務	社会人としてのPC操作能力の向上を図ると共に、販売会社で使用しているシステムを学び実践できるようにする。	3 前 4 通	61.2		○		○		○		
合計					67	科目	4033 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	必修科目全てにおいて必要時間の履修を完了し、かつ全ての試験に合格することが課程修了の条件となり、進級・卒業を認定する。□	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	原則、全時限を履修とし、遅刻、欠席、早退に対しては補講の受講を必要とする。補講を含め全時限を履修後に試験を受験することができる。	1 学期の授業期間	26 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。